

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村 井 嘉 浩
発 行 所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編 集 発 行 人
高 橋 正
印 刷 所
(株)東北プリント



「令和元年度経営者セミナー（肉用牛）及び中核畜産農家経営支援研修会」
(令和2年2月26日 大崎市古川 パレットおおさき)

も く じ

C O N T E N T S

令和2年度畜産施策の基本方針と主要施策……………2-3	〈農業大学校生の抱負〉……………9
令和2年度畜産・酪農経営安定対策及び 畜産物価格について……………4-5	令和元年度価格安定対策関連発動状況について……………10
「第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会」における 指定交配について……………6	〈人の動き〉……………10-12
宮城県獣医師修学資金貸与者募集……………7	
〈衛生便り〉……………7	
〈畜試便り〉……………8	
令和元年度経営者セミナー（肉用牛）及び 中核畜産農家経営支援研修会開催報告……………9	



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからご覧いただけます。



令和2年度畜産施策の基本方針と主要施策

宮城県農政部畜産課

I 基本方針

本県の畜産は、宮城の将来ビジョンで掲げる「富県宮城の実現」の達成に向けた重要な基幹産業と位置づけられ、平成30年の畜産の農業産出額は約758億円と県農業産出額全体の約4割を占めるなど、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給する畜産主産県としての地位を確立しています。

平成23年3月の東日本大震災では、畜産関連施設が甚大な被害を被りましたが、昨年3月末までに施設復旧事業が全て完了しました。また、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響については、一時保管されていた農林業系汚染廃棄物の焼却処理、すき込み処理が本格化し、肉用牛の出荷制限についても昨年3月に解除され、本年3月にはガイドラインの見直し等に伴い牛肉の放射性物質検査対象が緩和されました。

一方、日米貿易協定等の発効などに伴う輸入畜産物の増加、人口減少及び高齢化に伴う担い手の減少、豚熱等の特定家畜伝染病に対する防疫強化に加え、昨年10月の令和元年東日本台風による被害、さらには、新型コロナウイルスの感染拡大が畜産物の消費をはじめ流通・生産にも影響を及ぼしており、本県の畜産を取り巻く環境は厳しさを増しています。

このため、これらの状況に柔軟に対応するとともに、市町村・JA・畜産関係団体との連携を図りながら、次の重点項目に取り組みます。

- 1 畜産の創造的な復興の推進
- 2 安全・安心な畜産物の生産支援
- 3 国際競争に打ち勝つ儲かる畜産経営の実現
- 4 畜産基盤整備による農村の振興

II 主要施策

【1 畜産の創造的な復興の推進】

東日本大震災からの創造的な復興を推進するため、高能力種畜等の導入支援を通じて弱体化した畜産生産基盤の底上げを図ります。また、放射性物質検査を通じて畜産物の安全性を確保するとともに、牛肉の円滑な出荷体制を確立します。

(1) 畜産生産基盤の再構築

高能力の種畜等の導入により畜産生産基盤の底上げを図り、畜産の生産力回復を推進します。

○みやぎの子牛生産基盤復興支援事業

肉用子牛生産基盤の強化と生産性の向上を図るため、「茂福久」号や「洋糸波」号等の優良雌子牛の県内保留を支援し、肉用牛の生産基盤の再生と経営の規模拡大を推進します。

(2) 放射性物質検査による畜産物の安全確保と風評の払拭

畜産物の安全性を確保するため、原発事故による畜産物への放射性物質の影響を把握し、草地の再除染や施肥管理の指導、給与自粛牧草等の管理指導、牛肉の出荷円滑化などに取り組みます。

○給与自粛牧草等処理円滑化事業

放射性物質に汚染された稲わらについて、最終処分されるまでの間、適切な一時管理を実施するため、一時管理施設の保守点検や施設補修等の維持管理を実施します。

○放射性物質影響調査事業

粗飼料や原乳等の放射性物質濃度を測定するとともに、放射能の影響を低減するための飼料作物の栽培管理等の指導を行います。

○肉用牛出荷円滑化推進事業

県産牛肉の安全性を確保するため、県内の食肉市場に出荷される検査対象牛について放射性物質検査を実施します。

○みやぎの肉用牛イメージアップ事業

全共宮城大会で本県の和牛が高く評価されたことを全国の消費者に伝え、県産牛肉の消費拡大対策を実施することにより、原発事故による風評の払拭に努めます。

【2 安全・安心な畜産物の生産支援】

豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染性疾病的の発生予防とまん延防止を図るため、各種伝染性疾病的の検査の実施や飼養衛生管理基準の遵守を指導し、健康な家畜の生産と安全・安心な畜産物の安定供給を推進します。また、畜産物のGAP（農業生産工程管理）の取組や認証取得の支援により、県産畜産物に対する付加価値向上を図ります。

○家畜伝染病予防事業

豚熱、高病原性鳥インフルエンザなど牛・豚・鶏・馬・みつばち等の各種伝染性疾病的の検査と関連する防疫対策を行い、監視伝染病的の発生予防とまん延防止を図ります。

○GAP認証取得推進事業（畜産物）

日本版畜産GAPの普及推進を図るため、制度の周知とともに指導員等の養成による推進指導体制の構築を進めます。

【3 国際競争に打ち勝つ儲かる畜産経営の実現】

儲かる畜産経営を実現するため、実需者を意識した畜産物の生産体制や「仙台牛」に代表される「食材王国みやぎ」の畜産物ブランドの推進、家畜改良による生産性向上や畜産新技術の開発・普及を推進し、新たな国際競争に打ち勝つ畜産経営の体質強化と経営安定を図ります。特に、地域が抱える諸課題の解決と収益性向上を図るため、畜産クラスター事業を積極的に活用し、収益性の高い儲かる畜産経営の実現を支援します。

(1) 儲かる肉用牛経営の実現

現場後代検定で脂肪交雑が日本一となった「茂福久」号に続く優秀な種雄牛造成、産肉能力や繁殖能力に優れた高能力雌牛群の整備、受精卵移植技術の活用、肉用子牛価格の安定、畜産の経営改善と技術向上を図るとともに、全共宮城大会における成果を活かした高品質な肉用牛生産、収益性の高い肉用牛経営の実現を図ります。

○肉用牛集団育種推進事業

繁殖農家、肥育農家の協力を得て優れた種雄牛を造成するとともに、能力の高い繁殖雌牛群の整備により、高品質のブランド牛肉「仙台牛」の生産基盤を強化します。

○みやぎの肉用牛パワーアップ事業

肉用牛の担い手を確保し、肉用牛の生産基盤を維持回復させるため、繁殖・分娩・飼養管理等の労働環境整備に必要な労力軽減対策機器等の導入を支援します。

○トップブランドに向けた「仙台牛」の差別化事業

国が進めるおいしさ指標に即応するため、「仙台牛」の科学分析データの蓄積を進めるとともに、遺伝子検査による遺伝子評価と受精卵移植技術を活用した和牛の改良速度の向上を図ります。

○第12回鹿児島全共出品対策事業

全共鹿児島大会で日本一を獲得するため、宮城大会以上の出品対策を講じることで、仙台牛の生産基盤強化とブランド力向上を図ります。

(2) 活力ある畜産の振興

乳用牛の生産能力を高めるための牛群検定の普及・指導強化や、ゆとりある酪農経営実現のための酪農ヘルパー事業への支援を行います。また、県独自の優良種豚の供給、輸入飼料高騰対策として自給飼料の生産拡大や家畜生産性向上等の取組により、畜産生産基盤の活性化を推進します。

○畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

畜産農家をはじめとする地域の関係者が連携し、地域の畜産の収益性向上を進めるため、畜産クラスター計画に位置付けられた中心的な経営体が行う、規模拡大や生産性向上による体質強化のための施設整備等の取組を支援します。

○畜産振興総合対策事業

生乳流通の合理化を推進するため、生産者団体が行う集乳施設の統廃合等を支援します。

○乳用牛群検定指導強化事業

乳用牛群検定指導員を対象とした研修会の開催や効果的な検定実施体制の整備及び受精卵関連技術を活用した高能力乳用牛の生産を推進します。

○酪農ヘルパー事業運営強化対策事業

酪農経営における「働き方改革」を推進するため、酪農ヘルパー事業によるゆとりある持続性の高い酪農経営の実現を図ります。

○優良種豚選抜推進事業

系統豚「しもふりレッド」、「ミヤギノL2」の種豚や家畜人工授精用精液の供給を通じて、銘柄豚の生産力強化を図ります。

○飼料価格高騰対策支援事業

輸入飼料価格高騰への対応として、稲ホークロップサイレージや飼料米の利用促進、食品残さなど未利用資源の飼料化（エコフィード）の拡大と家畜生産性の向上による低コスト化を推進します。

○次世代畜産リーダー指導力向上事業

畜産農家への総合的な支援と地域の実情に応じた畜産施策を展開するため、畜産担当職員の指導力向上と地域リーダーの育成に取り組みます。

(3) 畜産新技術の開発・普及

畜産試験場における試験研究体制を整備し、新たな畜産技術の開発と普及を推進することにより、国内外の産地との競争力強化や自給飼料確保による生産性向上を進めます。

○県単独試験研究費・受託試験研究費

本県の特徴を活かした畜産物の生産性向上と高品質化のため、牛の受精卵移植技術の活用や育種素材の遺伝子解析技術の開発に取り組めます。また、国の試験研究機関や大学との共同研究等により、家畜の生産性向上、家畜ふん尿の効率的な処理、飼料作物の増収等の新技術の研究開発を推進します。

【4 畜産基盤整備による農村の振興】

生産基盤や畜産関連施設の整備を行い、地域の核となる畜産経営体を育成し、活力ある農村の再生を図ります。

○資源リサイクル畜産環境整備事業

広域たい肥センターのうち、老朽化の進んだ施設や機械等の機能保全と長寿命化を図ります。

○畜産基盤再編総合整備事業

飼料基盤及び農業用施設等の整備による効率的な飼料生産基盤の確立・飼料自給率の向上を図るため、畜舎等の施設整備や草地の造成整備を行います。

(企画管理班)

令和2年度畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格について

宮城県農政部畜産課

農林水産省は令和元年12月に、令和2年度の畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格を決定しました。

1. 酪農関係対策

「加工原料乳生産者補給金制度」については、生産者補給金が8円31銭、集送乳調整金が2円49銭となります。生産者補給金と集送乳調整金の合計は生乳1kg当たり10円85銭となり、昨年度に比べ5銭の引き上げとなります。

なお、「加工原料乳生産者経営安定対策事業」も継続し実施されます。この対策は、加工原料乳（脱脂粉乳・バター等向け、チーズ向け及び生クリーム等液状乳製品向けの生乳）の取引価格が、補てん基準価格である全国の直近3年間の平均取引価格を下回った場合に、生産者と国による積立金から、その差額の8割が補てん金として交付されます。

2. 肉用牛関係対策

「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」は、肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、その差額の9割が交付金として交付されます。なお、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。

また、「肉用子牛生産者補給金制度」も継続し実施されます。この制度は、肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種、乳用種、交雑種）の四半期毎の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合に、生産者に対して生産者補給金を交付し、さらに合理化目標価格を下回った場合は、下回った額の9/10が補給金として交付されます。

3. 養豚関係対策

「肉豚経営安定交付金制度（豚マルキン）」は、肉豚1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、その差額の9割が交付金として交付されます。また、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。

4. 採卵養鶏関係対策

「鶏卵生産者経営安定対策事業」は今年度も実施されます。この対策は、鶏卵の標準取引価格（月毎）が補てん基準価格を下回った場合、生産者と国による積立金からその差額（補てん基準価格と安定基準価格の差額を上限とする）の9割が補てんされます。今年度から経営規模に拘わらず、補填されます。さらに「成鶏更新・空舎延長事業」では、鶏卵の標準取引価格（日毎）が安定基準価格を下回る日の30日前から、安定基準価格を上回る日の前日まで（ただし、安定基準価格を上回る日の前日まで、食鳥処理場に予約されている場合は、安定基準価格を上回った日から起算して30日後まで）に、更新のために成鶏を出荷し、その後60日～90日の空舎期間を設ける取組を行った場合に、成鶏1羽当たり210円以内の奨励金が交付されます。10万羽未満の小規模生産者については、昨年度の成鶏1羽当たり270円以内から引き上げられ、310円以内の奨励金が交付されます。また、今年度から新たに、91日～120日の空舎期間を設ける取組を行った

NAR 地方競馬全国協会

岩手競馬（盛岡・水沢開催）4・5月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
4月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
					水	沢							水	沢						水	沢					水	沢				
5月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
			水	沢							水	沢					盛	岡							盛	岡					

※開催期間中の重賞レース

・4/5(日) 第45回スプリングカップ ・4/6(月) 第45回あやめ賞 ・4/12(日) 第45回赤松杯 ・4/26(日) 第20回留守杯日高賞
・5/3(日) 第40回ダイヤモンドカップ ・5/10(日) 第45回シアンモア記念 ・5/24(日) 第5回早池峰スーパースプリント

場合に成鶏1羽当たり420円以内の奨励金、10万羽未満の小規模生産者については、620円以内の奨励金が交付されます。

5. 令和2年度畜産物価格

(1) 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金の単価並びに総交付対象数量

区 分	令和元年度	令和2年度
総 交 付 対 象 数 量	340万トン	345万トン
生産者補給金の単価	8.31円/kg	8.31円/kg
集送乳調整金の単価	2.49円/kg	2.54円/kg

(2) 肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格

(単位：円/頭)

区 分		令和元年度		令和2年度
		(~R1.9.30)	(R1.10.1~)	
保 証 基 準 価 格	黒 毛 和 種	531,000	541,000	541,000
	褐 毛 和 種	489,000	498,000	498,000
	そ の 他 の 肉 専 用 種	314,000	320,000	320,000
	乳 用 種	161,000	164,000	164,000
	交 雑 種	269,000	274,000	274,000
合 理 化 目 標 価 格	黒 毛 和 種	421,000	429,000	429,000
	褐 毛 和 種	388,000	395,000	395,000
	そ の 他 の 肉 専 用 種	249,000	253,000	253,000
	乳 用 種	108,000	110,000	110,000
	交 雑 種	212,000	216,000	216,000

(3) 鶏卵の補てん基準価格及び安定基準価格

(単位：円/kg)

区 分	令和元年度	令和2年度
補てん基準価格	185	183
安定基準価格	163	161

また、「養豚経営安定対策補完事業」も継続実施され、産子数や飼料効率の向上などによる生産コストの低減を図るために必要となる純粋種豚等の導入及び異常肉の発生を防ぐための遺伝子検査をする際の経費の一部を支援します。純粋種豚導入は10万円/頭、広域的な共同利用に資する海外純粋種豚は40万円/頭、精液導入は1万円/本を上限として交付します。F1母豚導入は一経営体当たり30頭を上限に、2万円/頭を上限として交付します。

(企画管理班)

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト (<http://www.keiba.go.jp/>) でもご覧になれます。

(担当：審査部登録課 電話03-3583-2142)

(事務局 全国和牛登録協会宮城県支部・宮城県農政部畜産課)

宮城県獣医師修学資金貸与者募集

宮城県農産部畜産課

宮城県の畜産振興のため皆さんの力を必要としています!!

【修学資金の内容】

1 貸与対象者:

獣医学を履修する課程に在学する5年生で卒業後宮城県(家畜保健衛生所)に獣医師として勤務しようとする方

2 募集人員: 令和2年度分1名(5年生のみ対象)

3 貸与額: 国立公立大学生 10万円/月、私立大学生 18万円/月

4 提出書類: ①申請書 ②学長の推薦書 ③健康診断書 ④戸籍謄本
⑤学業成績証明書 ⑥保護者等の収入を証明する書類

(①、②の書類は、(一社)宮城県畜産協会のホームページよりダウンロードできます。)

5 提出期間: 令和2年4月1日(水)から7月31日(金)まで(当日消印有効)

6 選考日時・場所: 令和2年8月7日(金) 自治会館202会議室
(詳細はホームページ等で案内予定)

7 選考方法: 書類審査、小論文及び面接により貸与者を決定し通知します。

8 返還免除:

県職員採用試験に合格し、大学卒業後直ちに獣医師資格を取得し、宮城県職員(家畜保健衛生所)として、貸与額によって一定期間以上勤務した場合は、修学資金全額の返還が免除されます。

10万円/月: 貸与期間の2分の3以上 18万円/月: 貸与期間の3分の5以上

9 返還措置: 貸与資金は規程に基づき、返還措置が発生する場合があります。

※貸与期間は、大学5年生の6月～6年生の3月までの22ヶ月間です。



仙台・宮城観光PRキャラクターむすび丸

※希望者は
先ず、お電話で
内容をご確認ください。

【採用・勤務条件等に関する問い合わせ先】

宮城県農政部畜産課衛生安全班

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1

TEL 022-211-2854 FAX 022-211-2859

HP <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tikusanka>

【修学資金に関する問い合わせ先・申請書類提出先】

一般社団法人宮城県畜産協会総務課

〒983-0832 宮城県仙台市宮城野区安養寺3-11-24

TEL 022-298-8471 FAX 022-293-2311

HP [http://miyagi.lin.gr.jp/vetshuugakusikin/index\(vet\).htm](http://miyagi.lin.gr.jp/vetshuugakusikin/index(vet).htm)

〈衛生便り〉

感染症予防対策をより実効あるものにしていきましょう

東部地方振興事務所畜産振興部

現在、人において流行している新型コロナウイルス感染症はワクチンや治療法がなく、感染のリスクを下げていくために複数の対策がとられています。また、この疾病の流行により感染予防意識が高まり、季節性インフルエンザの発生が例年より少ないまま終焉を迎えたという報告もあるようです。畜産現場においては、過去に口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの発生があり、現在では豚流行性下痢や豚熱(CSF)が継続して発生していますが、感染予防対策として「消毒をしっかり行っていた当時は様々な病気が少なかった」という現場の声を聞くことがあります。これらの報告が示すとおり、感染予防意識の向上と徹底した対策の継続は、感染リスクの低下につながっています。

人でも家畜でも、感染症対策の基本は消毒と感染伝播の遮断であり、重要なのは体裁ではなく実効性です。バイオセキュリティの基本である消毒が的確に実施さ

れるためには、消毒薬の選択、頻回交換、十分な洗浄及び消毒薬の作用時間の確保に留意する必要があります。また、感染予防のための長靴の交換については、面倒で継続できないという不満を訴える方もいると思いますが、踏込消毒槽よりも実効性があります。畜舎内専用の長靴と踏込消毒槽の併用は非常に効果的です。

ちなみに、家畜・家禽におけるコロナウイルスが関与する主な疾病として、牛コロナウイルス感染症、豚流行性下痢、豚伝染性胃腸炎、豚の呼吸器コロナ、鶏の伝染性気管支炎がありますが、人に感染したという報告はありません。家畜を守るためにも家畜伝染病の発生予防・まん延防止の前提となる飼養衛生管理基準等を再点検し、感染症予防対策をより実効あるものにしていきましょう。

(畜産振興班 千葉直幸)

〈畜試便り〉

分娩前後における母豚の赤血球数と繁殖成績との関連

宮城県畜産試験場

【はじめに】

分娩前後における母豚の管理は、産子数や離乳率等の生産性を向上する上で重要な作業の一つです。低栄養状態の母豚では分娩事故の増加や泌乳量の減少を引き起こし、発育不良や離乳率の低下につながります。近年は養豚経営が大規模化し、時間をかけて母豚を観察することが困難であることから、母豚の管理に役立つ生産性の指標が求められています。本試験では、牛の周産期管理に活用されている血液成分に着目し、分娩前後における母豚の血液成分と繁殖成績との関連について調査したところ、赤血球数（RBC）と一部の繁殖成績に関連が認められたのでご紹介します。

【方法】

宮城県畜産試験場で飼養されているランドレース種系統豚「ミヤギノL2」の母豚26頭について、平成27年から令和元年までの分娩記録116産を使用しました。母豚から交配後80～90日（妊娠後期）に採血し、RBCと繁殖成績（総産子数、死産数、出生・3週齢時生存産子数、3週齢時総体重、産次）との相関係数を算出しました。また、妊娠後期の赤血球数と出生時生存産子数との関連を調査するため、産次数が1～6産次（低産次群）と7～14産次（高産次群）に分け、単回帰分析を行いました。

【結果・まとめ】

RBCは分娩後に低下し、離乳後にかけて上昇しました（表1）。また、全期間において、赤血球数は産次と中程度以上の負の相関を示しました。産次群ごとにRBCと出生時生存産子数との相関係数を求めたところ、低産次群：-0.33、高産次群：0.25となりました（表2）。さらに、低産次群では、出生時生存産子数 = $-0.0174 \times \text{RBC} (10^4/\mu\text{L}) + 20.60653$ の有意な単回帰式が得られ、妊娠後期のRBCから出生時生存産子数を推定できる可能性が示唆されました（図1）。多産系の母豚では、妊娠期の飼料摂取量が胎子の発育に影響を与える可能性が指摘されています。本試験で作成した回帰式を活用することで胎子数に応じた飼料給与量の調整が可能となり、出生時体重の増加や離乳率の向上に寄与することが期待されました。本試験結果は宮城県畜産試験場のミヤギノL2集団におけるものであり、他の品種及び農場については更なる検討が必要です。

本試験は農林水産省委託プロジェクト研究「畜産・酪農の生産力強化のための技術開発」における「家畜の生涯生産性向上のための育種手法の開発」事業の支援を受けて実施しました。

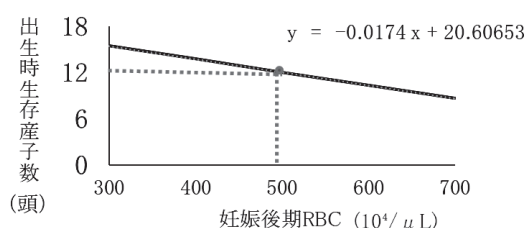
表1 赤血球数と繁殖成績との相関

	平均値 ($10^4/\mu\text{L}$)	総産子数	死産数	出生時 生存産子数	3週齢時 生存産子数	3週齢時 総体重	次回 総産子数	産次
妊娠後期	573.5	0.07	0.04	0.05	0.09	0.13	0.20	-0.70
分娩後	523.3	0.15	-0.07	0.18	0.16	0.19	0.25	-0.72
離乳後	572.1	-0.04	0.03	-0.06	-0.05	-0.02	0.15	-0.63

表2 各産次群の妊娠後期RBC、出生時生存産子数

データ数	妊娠後期RBC ($10^4/\mu\text{L}$)	出生時生存 産子数(頭)	相関係数
低産次群 57産	615	9.83	-0.33
高産次群 56産	552	7.96	0.25

図1 妊娠後期RBCと出生時生存産子数



令和元年度経営者セミナー（肉用牛）及び中核畜産農家経営支援研修会開催報告

一般社団法人 宮城県畜産協会

令和2年2月26日、大崎市古川「大崎生涯学習センター（パレットおおさき）」において標記研修会をNOSAI宮城との共催で開催いたしました。当日は、新型コロナウイルスの感染予防対策を図りながら開催し、肉用牛生産者及び関係機関等91名のご出席をいただきました。

講師に宮城県農業共済組合県北家畜診療センター 損防課 高橋知也先生をお迎えし、「つなげよう 仙台牛へバトンタッチ」と題して肥育農家に求められる子牛についてご講演を賜りました。

まとめとして、

- ・第一胃が発達した無駄な脂肪のない筋肉質な子牛が好まれる。
- ・第一胃の発育は、3～13ヶ月齢で決まる。
- ・第一胃内微生物は筋肉の源であり、筋肉内脂肪交雑の素を提供してくれるもの。
- ・第一胃内微生物を増やし、保護するため、粗飼料はたっぷり食べさせ、濃厚飼料は適量に。

と述べられました。

また、本研修会アンケート結果から「研修会が必要である」が89.8%と高く、今後もこのような研修会を企画してまいりますので、経営の一助となれば幸いです。

(経営支援課)

〈農業大学校生の抱負〉

これからの自分

宮城県農業大学校畜産学部 2 学年 佐藤 雄真



私は将来、自宅の酪農経営を継ぎたいと考えています。自宅の酪農経営の始まりは、私の曾祖父母の時代に現在の加美町に入植し1頭の牛から酪農経営が始まりました。他にも雑穀や野菜を作り販売をしながら生活していたそうです。その後、平成6年から7年にかけて公社営事業で70頭規模のフリーストール牛舎を建築しました。そして現在に至ります。現在では、成牛が50頭、育成牛20頭を飼養しています。数年前には祖父が和牛の飼養を始め、乳牛に和牛受精卵移植を始めました。私は幼い頃から牛と関わって生活してきましたが、私が自宅の経営を継ぎたいと考えるようになったのは、自宅の経営規模を拡大し、新たな取り組みを行いながら、一生懸命仕事をする父や祖父の姿を見てきたからです。そして、経営に必要な簿記やパソコンの知識を学ぶために地元の普

通高校へ入学し、農業にも活かせる知識を学んできました。さらには、農業の知識をより深く学ぶために宮城県農業大学校の畜産学部に進学しました。

農業大学の1年生では定期的に岩出山教場へ行き、畜産試験場で実習をしたり、講義を通じて学んできました。また、1年生の学習の中でも最も大切な、農業現場を体験する先進農業体験学習を通じて自分の畜産経営に対する考え方を学びました。体験学習では33日間毎日、朝と夜に搾乳やTMR作りをさせていただきました。他にもデントコーンや稲ホールクロップサイレージの収穫作業も教えていただくなど、酪農と飼料作物の収穫作業を実習させていただきました。また、水稻栽培でのコンバイン作業や糶摺り作業も体験させて頂きました。しかし、私が体験学習を終えた次の日に台風19号により甚大な被害に見舞われました。苦労して収穫したにもかかわらず、出荷用の主食用米や稲ホールクロップサイレージ、機械などが水害に見舞われました。予期していない災害により一晩で大きな被害を受け、災害の恐ろしさを感じるとともに、自分が経営を継いだ後にも、このような被害がいつ起きるか分からないことを改めて実感し、自分がこれから経営をしていく中でこの経験を活かしていきたいと思いました。

2年生からは家畜人工授精師や削蹄師の講習が始まります。まずは資格の取得を目指して日々頑張っていきたいと思います。

一般社団法人 宮城県畜産協会

(単位：円)

(単位：円)

販売月	肉専用種 (宮城県)	交雑種 (全国)	乳用種 (全国)
10月 確定値 (概算払)	－ (－)	15,271.2 (11,271.2)	48,722.4 (44,722.4)
11月 確定値 (概算払)	－ (－)	356.4 (－)	53,726.4 (49,726.4)
12月 確定値	－	－	63,042.3
1月 (概算払)	(－)	(－)	(43,339.1)

宮城県

農政部理事兼次長
農政部長（技術担当）
技術参事兼仙台家畜保健衛生所長兼仙台地方振興事務所畜産振興部長
技術参事兼北都家畜保健衛生所長兼北都地方振興事務所畜産振興部長
東部家畜保健衛生所長兼東部地方振興事務所登米地域事務所畜産振興部長
仙台家畜保健衛生所技術次長（監視伝染病対策担当）
畜産試験場上席主任研究員
仙台家畜保健衛生所主査
仙台家畜保健衛生所主査
仙台家畜保健衛生所
東部家畜保健衛生所

三浦	年男
中鉢	正信
伊藤	敦
山田	稻生
柴崎	卓也
加藤	伸悦
日野	義彦
鎌田	祐治
大内	正徳
稲本	理子
高波	優

令和2年4月1日付

新	旧	氏 名
農政部次長	人事委員会事務局次長	齋藤 巖
農政部次長（技術担当）	農業・園芸総合研究所長	江畑 正徳
技術参事兼畜産課長	技術参事兼畜産試験場長	大場 実
畜産課副参事兼課長補佐（総括担当）	土木用地課副参事兼課長補佐（総括担当）兼取用委員会事務局次長	遠藤 晶弘
畜産課技術補佐（班長）	東京事務所技術主幹（副班長）	門脇 宏
畜産課技術補佐（班長）	大河原地方振興事務所農業振興部技術次長（班長）兼病虫害防除所	武田 正寛
畜産課主任主査	畜産試験場副主任研究員	矢島 りさ
畜産課主任主査	仙台家畜保健衛生所主任主査（副班長）	柴田 千尋
畜産課技術主査	震災復興・企画部震災復興政策課技術主査	四ノ宮 徹
畜産課技術主査	東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部技術主査	杉本 達郎
畜産課	経済商工観光部商工金融課	菅原 慧
畜産課兼環境生活部放射性物質汚染廃棄物対策室	大河原家畜保健衛生所	橋本 佳奈
畜産課	仙台家畜保健衛生所	山崎保奈美
大河原家畜保健衛生所長兼大河原地方振興事務所畜産振興部長	東部地方振興事務所畜産振興部長	齋藤 裕
大河原家畜保健衛生所次長（総括担当）	畜産課技術補佐（班長）	鈴木 徳彦
仙台家畜保健衛生所長兼仙台地方振興事務所畜産振興部長	大河原家畜保健衛生所長兼大河原地方振興事務所畜産振興部長	大久 範幸
仙台家畜保健衛生所次長（総括担当）	北部家畜保健衛生所技術次長（班長）	高橋 幸治
仙台家畜保健衛生所技術次長（監視伝染病対策担当）	仙台家畜保健衛生所技術次長（班長）	小寺 文
仙台家畜保健衛生所技術次長（班長）	仙台家畜保健衛生所技術主幹（班長）	石橋 拓英
仙台家畜保健衛生所技術主幹（班長）	北部家畜保健衛生所技術主幹（副班長）	竹田百合子
仙台家畜保健衛生所技術主幹	畜産課技術主幹	柴田 知也

新	旧	氏名
仙台家畜保健衛生所主任主査	畜産課主任主査(副班長)	高野 泰司
仙台家畜保健衛生所主任主査	東部地方振興事務所畜産振興部主任主査(副班長)	千葉 直幸
仙台家畜保健衛生所技術主査	畜産課技術主査	結城 瑞希
仙台家畜保健衛生所主査	農業・園芸総合研究所次長(班長)	佐藤 司
仙台家畜保健衛生所	北部家畜保健衛生所	矢田 絢子
仙台家畜保健衛生所	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部	齋藤 拓海
北部家畜保健衛生所長兼北部地方振興事務所畜産振興部長	農業大学校副校長(畜産担当)兼畜産試験場兼農業大学校畜産学部長	高田 直和
北部家畜保健衛生所技術副参事兼次長(総括担当)	北部家畜保健衛生所次長(総括担当)	天野 祐敏
北部家畜保健衛生所技術次長(監視伝染病対策担当)	仙台保健福祉事務所環境衛生部技術次長(班長)	阿部 公一
北部家畜保健衛生所技術次長(班長)兼北部地方振興事務所地方振興部企画員	東部地方振興事務所畜産振興部技術次長(班長)兼地方振興部企画員	安達 芳則
北部家畜保健衛生所技術主幹(班長)	仙台家畜保健衛生所技術主幹(副班長)	真鍋 智
北部家畜保健衛生所技術主査	仙台家畜保健衛生所技術主査	板橋 知子
北部家畜保健衛生所	大河原地方振興事務所農業振興部	丹野 さやか
北部家畜保健衛生所	(新規採用)	馬場智恵美
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術副参事兼次長(総括担当)	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部次長(総括担当)	石川 知浩
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部	北部家畜保健衛生所	鹿沼 憲一
東部家畜保健衛生所長兼東部地方振興事務所登米地域事務所畜産振興部長	畜産試験場酪農肉牛部長	日野 正浩
東部家畜保健衛生所技術副参事兼次長(総括担当)	東部家畜保健衛生所次長(総括担当)	清水ゆう子
東部家畜保健衛生所主任主査	東部家畜保健衛生所技術主査(副班長)	熊田 修之
東部家畜保健衛生所技術主査	仙台家畜保健衛生所技術次長(監視伝染病対策担当)	加藤 伸悦
東部地方振興事務所畜産振興部長	仙台家畜保健衛生所技術副参事兼次長(総括担当)	早坂 駿哉
東部地方振興事務所畜産振興部技術次長(班長)兼地方振興部企画員	畜産試験場主任研究員	清水 俊郎
東部地方振興事務所技術主査	東部家畜保健衛生所長兼東部地方振興事務所登米地域事務所畜産振興部長	柴崎 卓也
畜産試験場長兼種豚家きん部長	畜産試験場種豚家きん部長	鈴木 英作
畜産試験場酪農肉牛部長	大河原家畜保健衛生所技術副参事兼次長(総括担当)	菊地 武
畜産試験場上席主任研究員	畜産課技術補佐(班長)	荒木 利幸
畜産試験場主任研究員	環境生活部食と暮らしの安全推進課技術主幹(副班長)	植田 郁恵
畜産試験場主任研究員	北部地方振興事務所農業振興部技術主幹	千葉 和義
畜産試験場研究員	畜産課技術主査	佐沢 公子
畜産試験場主査兼農業大学校	北部土木事務所主査	大柳麻衣子
畜産試験場	(新規採用)	矢神 和広
畜産試験場	(新規採用)	高木 理宏
農業振興課技術補佐	北部家畜保健衛生所技術次長(班長)	鶴田 昇
東部県税事務所主査	畜産試験場主査	加藤 強
大河原地方振興事務所農業振興部技術次長(班長)兼病害虫防除所	畜産課技術主幹(副班長)兼環境生活部放射性物質汚染廃棄物対策室	豊島 稔
大河原地方振興事務所地方振興部	畜産課	佐藤 文恵
仙台地方振興事務所地方振興部技術主幹兼企画員	仙台家畜保健衛生所技術主幹(副班長)	穴戸 嘉克
仙台地方振興事務所農業農村整備部主幹	畜産課主幹	青木 美奈
東部地方振興事務所登米地域事務所副所長(技術担当)	畜産課長	佐々木吉一
気仙沼地方振興事務所農業振興部技術次長	畜産試験場上席主任研究員	熊谷 弘明
環境生活部放射性物質汚染廃棄物対策室技術補佐(班長)兼畜産課	畜産課技術主幹兼環境生活部放射性物質汚染廃棄物対策室	遠藤 潤
動物愛護センター技術副参事兼次長(総括担当兼班長)	北部家畜保健衛生所技術次長(監視伝染病対策担当)	建入 茂樹
土木部河川課副参事兼課長補佐(総括担当)	畜産課副参事兼課長補佐(総括担当)	熊谷 圭太
土木部空港臨空地域課	畜産試験場兼農業大学校	平野 一輝

全国農業協同組合連合会宮城県本部

退職(令和2年3月31日付) 管理部付仙台中央食肉卸売市場株式会社出向
畜産部事業管理課
畜産部事業生産指導課
畜産部市場流通課
畜産部生産指導課長代理

佐々木 仁
後藤 嘉信
上野 新英
横江 進
伊藤 信行

令和2年4月1日付

新	旧	氏名
営農企画部TAC支援課長	畜産部市場流通課長兼みやぎ総合家畜市場長事務取扱	斎藤 力
畜産部市場流通課長兼みやぎ総合家畜市場長事務取扱	畜産部生産指導課	櫻井 弘幸
畜産部生産販売課	畜産部生産販売課 東京駐在	酒巻 岳仁
畜産部生産販売課 東京駐在	畜産部事業管理課	早坂 公宏
畜産部生産指導課 課長代理	畜産部生産指導課	川名 政路
畜産部生産指導課	畜産部生産販売課	小野 太道

宮城県農業共済組合（NOSAI宮城）

退職（令和2年3月31日付）

県南家畜診療センター所長
中央家畜診療センター所長
家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所所長兼庶務課長
中央家畜診療センター損防課技師

熊谷 克
佐々木弘志
吉目木勝策
原岡 諒

令和2年4月1日付

新	旧	氏名
中央家畜診療センター所長	中央家畜診療センター庶務課長	木村 喜正
県南家畜診療センター所長代行兼庶務課長	県南家畜診療センター損防課長兼庶務課長	河野 充彦
家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所所長代行兼庶務課長	県南家畜診療センター診療課長	村山 勇雄
県南家畜診療センター診療課長	県南家畜診療センター診療課長補佐	坂井 靖
県南家畜診療センター損防課長	中央家畜診療センター損防課長	川名 晶子
中央家畜診療センター損防課長	中央家畜診療センター損防課長補佐	福田 達也
中央家畜診療センター庶務課長	家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所診療指導課長	早坂 久範
県北家畜診療センター診療課長	県北家畜診療センター診療課長補佐	加納 茂太
家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所診療指導課長	県北家畜診療センター診療課長	小野 秀弥
中央家畜診療センター損防課長補佐	県北家畜診療センター診療課長補佐	鹿子嶋孝之
中央家畜診療センター診療課係長	中央家畜診療センター診療課技師	高橋 春美
中央家畜診療センター損防課係長	中央家畜診療センター診療課技師	後上 由乃
県北家畜診療センター損防課係長	県北家畜診療センター診療課係長	及川 伸代
県南家畜診療センター診療課技師	中央家畜診療センター診療課技師	下々村幸薫
家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	東山りつ子
家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	岩崎沙也加
家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	木村 健
家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	平井 匠
県南家畜診療センター診療課専門技術員	(採用)	大石 武志
県南家畜診療センター診療課専門技術員	(採用)	熊谷 克
中央家畜診療センター診療課専門技術員	(採用)	吉目木勝策
中央家畜診療センター診療課専門技術員	(採用)	佐々木弘志
中央家畜診療センター大衡支所診療課嘱託職員	(採用)	木村 有一
県南家畜診療センター診療課嘱託職員	(採用)	水沼 敏男

公益社団法人 みやぎ農業振興公社

退職（令和2年3月31日付）

常務理事
技監（担い手育成部、畜産・農村整備部担当）
畜産・農村整備部白石牧場技師
畜産・農村整備部白石牧場坪沼農場技師

井城 克廣
浅野 直明
佐久間雄司
白旗 乃愛

令和2年4月1日付

新	旧	氏名
常務理事	総務部長	庄子 喜幸
常務理事	宮城県農政部長	高橋 久則
参与（畜産振興部、農村整備部担当）	畜産・農村整備部長	谷口 敏
畜産振興部長	畜産・農村整備部総括次長	平田 利幸
畜産振興部次長（畜産振興班長）	畜産・農村整備部次長（畜産振興班長）	高橋 淳
畜産振興部参事兼岩出山牧場長	畜産・農村整備部参事兼白石牧場長	横谷 俊英
畜産振興部副参事兼白石牧場長	畜産・農村整備部副参事兼白石牧場副場長	佐藤 光美
畜産振興部白石牧場主任主査	畜産・農村整備部岩出山牧場技術主査	鈴木 司
畜産振興部白石牧場技師	畜産・農村整備部岩出山牧場技師	天野 秀人
畜産振興部白石牧場技師	(新規採用)	伊藤 海翔
畜産振興部白石牧場坪沼農場技師	(新規採用)	加藤 晴也
畜産振興部岩出山牧場技術主査	畜産・農村整備部岩出山牧場技術主査兼牧場長	遠藤 康彦
畜産振興部岩出山牧場技術主査	(再雇用)	庄司 功
畜産振興部岩出山牧場技術主査	畜産・農村整備部岩出山牧場技師	狩野 裕毅
畜産振興部岩出山牧場技師	(新規採用)	吉田 匠

一般社団法人 宮城県畜産協会

再雇用者契約満了（令和2年3月31日付）

家畜改良課主査
家畜衛生課指導相談員
仙南事業所指導相談員

猪狩 節子
佐藤 尚
渡部 正樹

令和2年4月1日付

新	旧	氏名
事務局長	家畜衛生課長	松田 悦子
家畜衛生課長	(採用)	伊藤 敦
仙南事業所長	価格安定課長	大宮 勝廣
価格安定課長	家畜衛生課長補佐	島貫 稔
価格安定課長補佐	経営支援課長補佐	北谷せつよ
家畜衛生課主幹	価格安定課主幹	三品 清美
経営支援課技師	経営支援課嘱託	武田 晃太
家畜改良課技師	(新規採用)	酒井 晃
家畜衛生課主事	(新規採用)	佐々木 結
中央事業所長（嘱託）	中央事業所長	半田 好昭